



対馬丸記念館と、遺族・サポーターを結ぶ、ふれあいの情報誌

対馬丸 通信

発行：(公財)対馬丸記念会
発行人：高良 政勝
編集：対馬丸記念会事務局
この冊子は、厚生労働省の予算で作成しています

Tsushima maru press

令和7年11月10日発行 第51号

令和7年度 対馬丸慰霊祭

8月22日 小桜の塔／対馬丸記念館1階企画展示室



護国寺・名幸定海住職の読経



焼香するご遺族



弔辞を代読する
大城肇副知事



知念覚那覇市長

戦後80年の今年も、旭ヶ丘公園・小桜の塔にて慰霊祭を厳かに執り行いました。ご遺族や生存者、ご来賓など350名の方々がご参列くださり、30度を超える炎暑のなか犠牲者に祈りを捧げました。高良政勝代表理事は「私たちがなすべきことは犠牲となられた方々の無念を忘れず、戦争の悲惨さと命の大切さを語り継いでいくことだ」「争いのない平和を願い、次の世代へとつなげていくことが亡くなられた方々への供養だ」と「追悼のことば」で述べました。オオゴマダラの放蝶が9年ぶりにあり、つしま丸児童合唱団



オオゴマダラの放蝶

企画展示室には暑さ対策で昨年同様、サテライト会場を設けて焼香の代わりに折り紙の白鳩を手向けました。また、19日には犠牲者5人の遺影を新たに掲示。内訳は学童が3名、一般が2名で記念館の遺影は計417名となりました。

員の手元からなかなか飛ぼうとしないことに参列者から笑いがかほれる場面も。記念館の1階



《令和7年度 新規追加遺影》

- 知念千代子さん 14歳
那覇国民学校
(提供者：具志堅宗彦さん)
- 又吉啓之さん 8歳
屋部国民学校
- 又吉エミ子さん 6歳
屋部国民学校
- 又吉カメさん 29歳
名護市
- 又吉久子さん 3歳
名護市
(提供者：又吉啓次郎さん、又吉郁枝さん)

宇検村の慰霊祭



船越海岸の対馬丸慰霊之碑

8月24日、鹿児島県宇検村船越（ふのし）海岸でも慰霊祭がおこなわれました。地元住民や来賓など約50人が参列し、81年前の悲劇を風化させず、後世へ語り継ぐ決意を新たにしました。元山公知宇検村長は追悼の言葉で、対馬丸事件生存者の故平良啓子さんの体験談を基にした舞台『生きているから』が上演されたことや、沖縄県主催の平和学習交流事業に触れ、「慰霊碑建立を機に始まった交流が、未来に向けて着実に受け継がれていくことを願っている」と述べられました。

悪石島支援の募金活動

63年前に慰霊碑が建てられたことを機に、犠牲者の追悼を続けてくださり、毎月第3金曜日の慰霊碑清掃も欠かさず継続くださっている鹿児島県十島村悪石島のみなさん。島の北西10キロ地点で870mの深海には今なお対馬丸の船体が多くのご遺骨とともに沈んでいます。周辺では今年6月より地震活動が活発化しており、7月には最大震度6弱を観測。撃沈から80年となった昨年の慰霊祭には悪石島から代表の小中学生を招待するなど、悪石島の住民らと長年交流を続けてきた対馬丸記念会は募金活動を始めました。高良政勝代表理事は「沖縄から支援し、ちむぐくるを示そう」と寄付を呼びかけました。



宇検村・悪石島との交流事業

11月7日から13日の日程で奄美大島宇検村と悪石島を訪ねます。それぞれの島に建立された対馬丸の慰霊碑の地に赴き、地元の方々とともに慰霊祭を挙げて、沖縄と宇検村、悪石島のつながりを深めていくことを目的にこの交流事業を行います。52名の関係者が参加予定です。

舞台「生きているから」対馬丸ものがたり上演

2022年の11月22日、生存者の平良啓子（2023年7月大動脈解離のため急逝）の体験講話に参加した演出家の宮本亞門さんは、9歳の少女が、対馬丸の沈没から漂流し、「死なない」「必ず生きる」という意志で生還した体験を舞台化し、今を生きる子どもたちへの生きる力にしてほしいと構想を練りました。そして2025年8月16日の「那覇文化芸術劇場なは」と



公演に向けて動き始めました。沖縄県のことでも未来部が、戦後80年の事業として舞台への予算計上を決めてくれたことで弾みがついてクラウドファンディングや一般寄付、広告協賛などが多く集まりました。おかげさまでチケットの販売も好調に進み、翌17日に追加公演もすることになりました。

役者のみなさんは懸命に対馬丸事件を学び、生存者の漂流の様子、生きてきたことの葛藤も描きました。後半の子どもたちの元気な歌とダンスは、世代を超えて「生きること」への希望に見えたとの感想も多く寄せられました。出演者は約80人、2日間3回公演の来場者は約4170人で、大盛況でした。ご協力いただきました皆さんに心から感謝いたします。

天皇皇后両陛下と愛子さま ご来館

行幸啓

6月5日は、天皇皇后両陛下、そして愛子さまがお見えになり、小桜の塔への献花、記念館の見学、生存者やご遺族との懇談（行幸啓）を約1時間半にわたり行われました。

「狙われたのは対馬丸だけですか」という天皇陛下からのご質問や犠牲者の遺影が少ないことに対して「肖像画はいかがでしょう」という愛子さまのご提案は、対馬丸事件や沖縄戦に対してのご関心、亡くなった人たちへお気遣いも感じられ、さらに対馬丸事件をはじめ沖縄戦や沖縄戦後史、天皇家の御立場から戦争の歴史を繙き、真の平和への取り組みを期待したいと思います。

館長 平良次子



©沖縄県

企画展「海の戦争を忘れない」戦没船が語るもの」
（6月14日～8月31日）開催

対馬丸以外の戦没船については課題でした。「戦時遭難船舶遺族会」は6月23日に「海鳴りの像」での慰霊祭をおこなわれています。

タイミングよく昨年、「戦没船を記録する会」の理事である長野県の西澤清文さんと会長の平山誠一さんともつながり、戦後80年の2025年に記録する会の展示会も併せて、企画展としてご協力をいただくことになりました。全国の戦時沈没船のことで、戦時中に船舶が徴用され、多くの犠牲を出したことで、いかに危険な「海の戦争」の真ただただ中、対馬丸も出航しなければならなかったがよく分かりました。箝口令の影響や、未調査（非調査）のため情報取得が困難であるかなど、そこには多くの船員や一般住民が不条理な状況で命を落とした現実があったかを思い知りました。

「戦没船を記録する会」は会員たちが自らの手でこの戦争を検証しそ

の記録を後世に伝えるため1994年から調査を行い、全国各地で展示会を開催しています。2000年には神戸市内に「戦没した船と海員の資料館」を開設し、戦没した船は15,518隻、徴用され戦時中に亡くなった船員は、60,609人と記録されていることを紹介しています。地上戦とちがいで、遺骨収集は困難であることは想像できます。

この度、企画展の開催にあたり、同じ那覇市若狭に事務所を持つ「全国海員組合」沖縄支部にもお世話になりました。沖縄支部長の柴田哲也さんは、快く私たちの企画展にご協力いただき、広報誌等への企画展の紹介、本部職員等のご来館、さらに職員・会員のみなさんで「海鳴りの像」慰霊碑周辺の清掃に訪れてくださいました。船や海のつながりで、そのようなお心遣いや交流ができたことは大変心強く大切なことだと感じました。

企画展示の基本はこれまでに沖縄県で把握されてきた「戦時遭難船(のちに戦時撃沈船)」の26隻に加え、追加されるべき船舶の調査を

行ってきた宮城邦昌さんの情報で、新たに高千穂丸、そして米軍側の資料調査で分かった大東島近海の犠牲となった泰仁丸、福成丸と南丸の情報を得た保坂廣志先生、久米島博物館の山里直哉さんから嘉進丸の情報提供があり、その5隻を加え計31として展示をしました。

関連企画として以下3回の講演会を開催しました。どの回も来場者の関心が高く、開催する意義を再認識しました。

① 6/21(土)

「戦没船を記録すること」

平山誠一(戦没船を記録する会)

平山さんは「記録する会」の活動意義をまず語り、現在の近隣諸国との関係性と島嶼国、島嶼県であるがゆえに、「戦争になるとまずシーレーン(海路)が断たれ、日本は生活機能が麻痺し、壊滅してしまう国なのです」と断言され、現在進められている「避難計画」は海員や船会社が拒否したら成り立たないことだと新しい視点で現状に目を向けさせていただきました。

② 7/12(土)

「沖縄関係戦没船調査について」

大城敬人(戦時遭難船舶遺族会)

大城さんは、40年余にわたる戦時沈没船舶犠牲者の遺族からの声に応え、調査活動や国への要請など忙しく動き回わり、現在でも「海鳴りの像」周辺の清掃や対馬丸を除く戦没船の慰霊祭には、遺族会の中心として、慰霊祭の運営、連絡などに勤しんでおられます。こんなにもたくさんの方の戦没船と、同じ思いのご遺族がいらつしやることを来場者は認識していただけたことと思います。

③ 8/30(土)

「戦時沈没船調査の現状」

宮城邦昌

(台風15号と対馬丸沈没・漂流)

● 保坂廣志

(米軍資料から事件を追求する)

● 大城敬人

(戦没船調査とご遺族)

元気象台職員の宮城邦昌さんからは、対馬丸事件当時、犠牲者や生存者たちが、発生した台風の影響で黒潮により北上するはずが南へ

流れて奄美大島の海岸にたどり着いたことを説明していただきました。台風がなければ、奄美大島に流れ着いた生存者も見つかった遺体もなかっただろうとの新しい発見でした。米軍関係資料をひもとき、新しい犠牲船を見つけた保坂先生の報告も興味深く、今後「沖縄関係戦没船(撃沈船)」を整理し、米軍資料、地域史、そして神戸の資料館の所蔵する情報などのすり合わせが戦時船舶の調査の第一歩を踏み出すことを示してくださいました。

館長 平良次子



座談会



「海の戦争を忘れない」チラシ

開館20周年記念誌を 発刊しました

開館20周年記念事業として編集を進めていました、記念誌を予定より随分と遅れましたが、やっと発刊することができました。

これまで記念館にかかわってこられた関係者の寄稿や、20年の歩みを余すことなく掲載した記念誌です。執筆の池宮照子氏と、編集の骨子を「ひと、もの、こと」の三本柱でまとめることに決めて制作しました。

通史の記述では、開館以来記念館の運営に携わってきた、代表理事の高良政勝、常務理事の外間邦子に私渡口眞常の三人で記憶のすり合わせを行い、その時々々の新聞報道や対馬丸通信をもとに、執筆者を交えてこれまでの歩みを振り返りました。

上記の役員三人以外は、職員的身分が安定せず入れ替わりなどもあり、20年の歩みを俯瞰できる職員がおらず、また私たちも歳と共に記憶が薄れる前に記念館の履歴をまとめる良い機会となりました。掲載写真を整理していると、財団運営の素人がよくこれまで破綻す

ることなく運営できたなという感慨に耽つてしまいました。これも偏ひとえに設立理念に共感いただき、支えてくださいました皆さま方のおかげだということを感じたいです。

これから記念館を担っていく若い職員にとつて、今後の活動のバイブルとして、またご支援くださる皆さまにとつても「子どものための戦争記念館」としての対馬丸記念館をご理解いただける記念誌となりました。

ご寄稿いただき
ました皆さまへ改めてお礼申し上げます。
発刊の報告といたします。



副代表理事 渡口眞常

20周年記念誌は各都道府県立図書館および県内自治体図書館（あるいは教育委員会）に贈呈済みです。閲覧ご希望の方はそちらへお問い合わせください。記念誌はA4オールカラー、159ページです。

嘉数昇明さんが 琉球新報賞受賞

第61回琉球新報賞に対馬丸記念会の評議員である嘉数昇明さんが選ばれました。9月18日にはハーバービューホテルで贈呈式と祝賀会が開



受賞スピーチ中の
嘉数昇明さん

祝賀会場にて



催され、当会の三役が出席してお祝いしました。

県議4期を経て県出納長や副知事を歴任し、行財政改革や沖縄振興に尽くした嘉数さんは「戦後80年の節目の年に名誉ある賞をいただいたことは大変意義深い」と語りました。

第47回ちやーがんじゅう講座 「沖縄戦を生きぬいた人びとの 痛みを聴く」沈黙の中に 生きるということ」

9月27日に沖縄大学教授の吉川

麻衣子先生を講師にお迎えして講座を開催しました。20年前に「同じ戦世を生きた人同士で、戦争での体験やその後の人生で感じ、考えてきたことを安心して語り合いたい」という願いから生まれた「沖縄戦を語り合う場」。吉川先生は参加者



終を麻衣子先生
の合川先生
の吉川先生
の語りす衣



熱心に耳を傾ける受講者のみなさん

のニーズを軸にして共に場を創るため、きめ細やかな準備を含めた実践について説明。参加者40名は、70分の講話後に4〜5名のグループに分かれて、平和のイメージや今を生きる私たちに問いかけられていることについてそれぞれ付箋に書いてワークシートに貼って語り合う「参加型ワーク」もありました。アンケートには「戦争の状況だけでなく、語れない胸の内や気持ちなども知ることができ、苦しみを共有することができました」「自分のプライベートでも祖母に聴けなかったことを、沖縄戦体験された方の証言をビデオを通して知ることができたこと、すごく有難く思いました。その方たちが苦しみを乗り越えて、勇気を出して伝えてくれた事を大切に持ち帰って、家族にもしつかり伝えてゆきたいと思えます」などの声が寄せられました。



つしま丸児童合唱団便り



令和7年度上半期 活動報告

つしま丸児童合唱団では随時団員を募集しております。お申し込みは、対馬丸記念館まで。

今年で14年目を迎えたつしま丸児童合唱団は、新たに4人が加わり計11名で活動しています。上半期はたくさんさんのイベントがありました。その中から三つだけ厳選して、頑張った子どもたちの様子をご紹介します。

■ 結成式

5月10日、対馬丸記念館で結成式が行われました。高良政勝代表理事の挨拶から始まり、指導者の紹介や子どもたちの決意表明を行いました。

■ 沖縄全戦没者追悼式

6月23日、平和祈念公園で行われる沖縄全戦没者追悼式に参列しました。那覇少年少女合唱団、南風原少年少女合唱団も合同で式に参加し、平和の歌を届けました。

■ 那覇市戦没者追悼式

10月4日、那覇少年少女合唱団と共に那覇市戦没者追悼式に参加し、歌に祈りや思いを込めて歌いました。



沖縄全戦没者追悼式



結成式



那覇市戦没者追悼式

沖縄・平和と 人権博物館ネットワー ク 第一回平和シンポジウム

7月6日、南風原町立黄金ホールで県内8つの平和関連施設のシンポジウムがありました。シンポジウムでは、

パネリストとして各館の館長・学芸員が登壇し館の紹介や継承について議論しました。対馬丸記念館からは館長の平良次子、学芸員の嶋袋寿純が参加し、海の戦争の悲惨さ、そして対馬丸以外にも数多くの船舶が沈没していることを伝えました。

第4回対馬丸 平和継承プログラム

6月から対馬丸平和継承プログラムの研修がスタートしました。今年は10名の子どもたちが参加し、十五年戦争や対馬丸そして奄美と対馬丸の繋がりを勉強しています。本研修では奄美大島へ行き、対馬丸慰霊之碑や実際に遺体が埋葬された場所へ赴きます。本研修は11月22～24日に行う予定です。

学芸員 嶋袋寿純



第1回平和シンポジウム

イベント・行事

● 5月8日

令和7年度那覇市立小中学校平和教育担当者研修会

「対馬丸記念館と旭ヶ丘公園の利活用を学ぶ」をテーマに、対馬丸記念館活用紹介や館内や旭ヶ丘公園の見学、各学校の取り組みについて情報交換をおこないました。

● 5月16日

令和7年度沖縄県博物館協会・春の研修会

県内博物館の学芸員などが博物館協会の現地研修として、記念館周辺の巡検や館内見学をしました。前日には「戦後80年における博物館の役割―沖縄から考える―」というテーマで、平良次子館長が基調講演をおこないました。

ニュースあれこれ

● 5月20日

那覇地区退職校長会から20万円のご寄付をいただきました。同会は会員の減少や高齢化を理由に解散することと



なり、会費の繰越金や積立金などの残金をご寄付くださいました。

● 6月19日

対馬丸事件に関するドキュメンタリー映画『満天の星』の試写イベントがあり、クラウドファンディングで集められた寄付金37万円をいただきました。

● 6月28日

北中城で慰霊の日チャリティコンサートを開いたYUIKAさんと喜納優子さん親子



は収益金の一部をご寄付くださいました。

● 9月19日

垣花奉頌会(渡嘉敷義浩理事長)より寄付金140万円をいただきました。今回は9回目となり、累計1260万円を賜りました。



トピックス

● 4月27日付

沖縄タイムスより「小桜の塔でこいのぼり掲揚式

26日、つしま丸児童合唱団や天妃小の児童ら15人が掲揚に合わせ、童謡「こいのぼり」や「小桜の塔」などを合唱しました。

● 5月31日付

琉球新報

広島市長と長崎市長が視察

日本非核宣言自治体協議会の研修会のため来県した、鈴木史朗長崎市長と松井一實広島市長が30日、小桜の塔と記念館を訪れました。

ご寄付

大口寄付(敬称略)

大島英世	3月24日
大森節子	5月20日
喜屋武ヨシ	6月24日
株式会社 秀拓 代表取締役	
米原恭淳	7月11日
謝花寛宮	7月25日
小波津巖	8月22日
津波剛	

令和7年2月1日、令和7年8月31日

(順不同・敬称略)

Lois Yoshinige、NPO法人石川・宮森630会、Ukwanshin Kabudan 御冠歌舞団(ハワイ)、青山孝利、阿嘉宗徹、赤嶺謙一、赤嶺義夫、赤嶺和雄、赤嶺政賢、赤嶺松栄、秋永明子、秋山基子、安里さゆり、安里芳子、朝野弘子、安次富長義、安次富百合子、安次嶺喜伸、安次嶺紀美子、足立理一郎、安倍昭恵、天笠茂、新垣幸子、新垣トヨ、新垣美恵子、新垣元洋、栗國賀子、飯塚広明、飯塚義光、五十嵐英子、池田幸枝、池延妙子、池宮照子、井坂猛、石井朗子、明日斗、石垣トミ、石神幸郎、石川芳子、石倉寿一、石倉幸子、石坂美砂、石田恵美、石

塚勲、伊志嶺豊和、磯口多恵子、市川昌二、伊藤俊一、伊藤良博、糸数慶子、糸数昌洋、稲葉司、稲葉美智恵、啓太、稲福晃、井上拓人、猪ノ口実、伊波純、伊波達也、伊吹嶺俳句会、今井君枝、伊良波節子、伊禮昭洋、岩浅博之、岩田幸代・結衣、岩野しのぶ、岩本美恵子、上江洲夏子、上田明、上野和子、上野菜々実、上原勝子、上原淳、上原孝徳、上原初子、上原博明、上原正枝、上原利恵子、上原齒科 川畑剛、内田善子、内間郁子、内間貞子、内間ひとみ、馬越恵子、梅田祐助、浦憲治、浦崎幸子、浦崎唯彦、浦添武子、運天厚子、英霊にこたえる会沖縄県本部会長 瑞慶山良祐、笑顔のはな、大川美沙子、大治正雄、大城敬人、大城純市、大城則安、大城英樹、大城操、太田敏久、大西英子、大野裕、大見恒進、尾形宏美、岡野洋三、岡村ヒロ子、岡本世紀一、沖文子、沖縄県護国神社、沖縄県俳句協会、奥田卓、奥平健次郎、越智百合子、翁長武盛、翁長ふくえ、翁長安子、翁長林行、小野寺健一、親泊道子、小山田真美、小緑清美、甲斐真由美、嘉数聡、嘉数真理、賀数聡、嘉数八重子・希、我喜屋進、我喜

屋朝尚、各務賢一、勝村里美、我那覇純都、金子智之、我部昌宏、株式会社オーム電機 代表取締役 新里彩、神谷嘉代子、加守田サチ・美恵、嘉陽安昭・信子、苅部弘達、川上桂子、川崎久子、川原伊津子、川満博行、川村則夫、漢那裕子、木岡清、菊地一也、岸本勝次、北浦真輝、喜納修、喜納桂子、喜納すえ子、宜野座洋子、木下淳、儀間文子、儀間盛善、儀間清楓・苙・奏・宇地原彩貴・佑、儀間秀子・剛、木村眞佐美、喜屋武一男、喜屋武盛明、喜屋武盛宜、金城和江、金城紀美代、金城昌昌、金城盛一郎、金城節子、金城園子、金城秀次・つや子、金城美恵、金城光枝、金城光也、金城由昇、金城芳子、具志ムツミ、具志堅宗彦、具志堅直子、楠本文郎・弘子、工藤なおみ、國吉綾子、國吉節子、國吉眞惇、久場富子、久場弘、久保文世、久保庭正子、倉片孝行、栗木紳雄、桑江一郎、桑江順子、けん齒科クリニツク 赤峯健、公益財団法人沖繩県女師・一高女ひめゆり平和祈念財団、公益財団法人沖繩協会 会長 清水治、合資会社沖繩実業 代表社員 宮里幸雄、幸地正夫、合同会社R.K.S.T.、光文堂コミュニケーションズ株式会社 外間なるみ、木暮一啓、

後藤千恵子、小西由起、莫正継、古波藏信泉、小波津隆、小林敏博、小林由佳、小松崎文子、權藤研一、西條友和、齊藤義光、早乙女良一、酒光幸子、坂本祐子、坂本じゅん子、崎浜範子、崎山眞智子、佐久本浩志、佐々弘美、佐々木啓祐、佐々木寛、佐々木フミヨ、佐次田典子、佐藤千恵子、猿田佐世、澤田義徳、塩澤弘美、塩谷誠二、柴田一郎、島良子、島尻英子・光雄、島田あけみ、嶋田要二・玲子・翔平、島田毅氏事跡顕彰期成会 嘉数昇明、島谷敦子、島袋久良々、島袋さとみ、島袋達子、島袋智加子、島袋哲英、嶋袋豊治、島袋則子、島袋誉之、島袋亮、清水雅子、下地農、下地幹郎、下地洋子、社会福祉法人イエス団 京都ブロック、謝敷宗光、謝花寛徹、尚軍、白梅継承の会 當山富士子、城間博子、城間三郎・美代子、新里篤、新里彩、新里忍、新里初子、新里眞美子、新日本婦人の会古川支部、末友雅子、杉山恒雄、杉山美奈子、杉山良樹、瑞慶山良和、鈴木寿美、須田節子、砂辺美智子、セイノタイジユン、瀬嵩マサ子、瀬名波由美、千石雅仁、大慧會教団、平良和義、平良次子、平良三重子、平良美智雄、高里千穂子、高江洲清子、高里盛友・シズ子、

高田幸一、高橋範子、高橋ミエ子、高松誠、高良一實、高良英一、高良聡、高良久子、高良英明、高良博、たから齒科、澤岷明、竹内義之、武田茂松、武田正勝、田崎龍ノ介、田澤秀子、橋和美、立津ツル子、棚原和子、谷口忠輝・正子、谷本久美子、玉城克和、玉城京子、玉城雄一、玉木利枝子、知念尚恵、知念武次、知念直満、知念米子、知念良政、千葉和子、千葉敏夫・文子、津嘉山信行、辻誠一、辻本俊文、土川賢介、土屋純、筒井瑞恵、都築正寛・さつき、常見琢夫、角田康弘、津波古敏子、手塚玲子、寺岡かおり、寺村高貴、照屋一男、照屋早智江・有植希友文希、照屋恒、照屋保子、天妃小学校、飛明井、當銘末子、徳田安成、渡口眞常、渡口美子、渡名喜元嗣、土肥久子、泊幸子、泊先寛顕彰会、富田世紀子、富村清聡、富村朝喜、豊岡君江、豊永盛秀、苗村宏忠、長有紀枝、長井幸一、中川秀幸、長崎信子、仲里正博、中島輝正、仲宗根留美子、中田綾子、中田光太郎、長田尚司、長田正明、仲地博、長浜豊、仲間理、仲松幸子、長嶺由明、中村英次郎、中村和男、仲村清、中村武史、中村信之、仲村晴佳、中村祐一、仲本江利子、仲本和男、中山

勲、中山いその、中山学、仲山幸代、名渡山敦子、那覇高校有志、那覇更生保護女性会、那覇市立若狭小学校校長 照屋謙一、西澤清文、西原洋子、西原良信・ミドリ、沼田素軌、根路銘秀樹、野木玲、野原嘉孝、蜂鳥影像 [JL] (台湾)、花城和子、埜浩信、浜崎盛久、早川尚江、林利恵、比嘉明子、比嘉いずみ・涼葉、比嘉恵子、比嘉幸江・孝憲、比嘉幸子、比嘉正詔、比嘉正輝、比嘉正彦、比嘉陽子、比嘉良子、樋口紀子、久高将吉、人羅格、比屋定輝子、平岡早織、廣瀬重之、深水加代子、福田健、福田昌弘、福原秀子、藤ノ木正哉、普天間悟、普天間初子、古堅瑛子、平安山登美子、辺士名朝憲、外間公也、堀内雪子、堀川竜二、本間美知子、本望隆司、前島3丁目婦人部、真栄城嘉一、真栄城嘉訓、真栄田和子、前田竹乃、前田洋子、牧志功子、真志喜保、真境名由守、又吉嘉伸、又吉正子、又吉康治、又吉康彦、又吉康之、松井光治、松島弘明、松永祥子、松本瑞代、松本安子、水谷真基、道広良子、南谷誠、宮城昭、宮城明美、宮城栄孝・世志子、宮城邦昌、宮城真也、宮城壮成、宮城典久、宮城操子、宮城美代子、宮城玲子、宮里悦子、宮里幸江、宮里善一、

宮里博史、宮里美奈子、宮里由希、宮地慶子、宮地辰彦、宮村晶子、村田浩治、銘苅朝規あや子、本村昌一、森朝子、森宏昭、森緑、森内純子、森山康和、屋宜裕子、安田まみ、山内好子、山加恵津子、山口郷子、山崎正樹、山里典子、山里将隆、山城邦弘、山城正子、山添雄美、山田美登里、山入端真弓、山村彰義、屋良朝博、屋良ありさ、屋良俊明、有限会社あすらまん、有限会社ディーランド 平田久雄、有限会社宮城錦水園、與古田桐子、吉川益弘・千恵子、吉田和子、吉田孝廣、吉田久子、吉田寛、吉永小百合、吉盛雅美、与那城智、与那嶺敦、米倉みつ子、米澤雄二、立正佼成会沖繩教会 会長 福田昌弘、琉球手まり保存会、若狭1丁目自治会 会長 岸本麗子、若谷政樹、若林やよひ、湧川秀子・祐一、渡辺香織、渡辺公博、一般財団法人兵庫県遺族会、株式会社真宣組 代表取締役 眞栄城嘉史、公益財団法人沖繩協会 新垣昌頼

